

<認知症対応型共同生活介護用>

評価報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

訪問調査日	平成 19年 5月 11日
調査実施の時間	開始 10時 30分 ~ 終了 14時 30分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム おおうら (鹿児島県)
評価調査員の氏名	氏名 <u>中島 文作</u>
	氏名 <u>山口 直美</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>佐久間 瞳</u>
	ヒアリングを行った職員数 (2)人

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4672400068
法人名	株式会社 九州保健医療
事業所名	グループホーム おおうら
所在地 (電話番号)	鹿児島県南さつま市大浦町8232番地 (電話)(0993) 58-5102
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成 19年 5月 11日

【情報提供票より】(平成 19年 4月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 7月 6日
ユニット数	2 ユニット
職員数	20 人
利用定員数計	18 人
常勤	8 人
非常勤	12 人
常勤換算	12 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	10,260 円	
敷金	有 () 円	(無)		
保証金の有無	(有) (50,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	200 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4月 20日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	11 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.2 歳	最低	83 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉見医院 大浦歯科 訪問看護ステーション「満天」
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

公営団地や一般住宅に隣接して建てられたホームは広大な敷地を有し、入居者はホームの理念の通り「ゆっくりのびのびとぬくもりに満ちた生活」を送ってられる。広大な敷地であるが故に、近所の子供の遊び場となり、日頃から自然に入居者との交流が図られている。また、運営推進会議を核として地域との連携が実践されており、地域に根ざした運営が行われているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	かかりつけ医が決まっていない入居者に対する定期健康診断の支援について、改善が求められたが、ご家族と協議の上かかりつけ医を決定し、定期的に往診を受けられるように改善されている。その他の改善課題についても、管理者を中心に検討を重ね、地域の方からの協力も得ながら、全ての項目に対して改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義が、運営者や管理者から職員に対して十分に伝えられ、理解されている。今回の自己評価についても、管理者を中心に全員で検討が行われ、サービスの質の向上に向けて前向きに取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、協力医療機関の職員や地元の警察関係者なども参加され、それぞれの立場から活発に意見が述べられている。会議を通して、グループホームや認知症に対する理解も深まり、周辺施設や近隣住民との良好な関係が築かれている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族等への報告やホームを運営していく上での意見、不満、苦情の聞き取りは都度行われているが、遠方のご家族に対する金銭管理状況の報告や、相談・苦情の外部窓口(市及び国保連等)の周知に関しては更なる取り組みが望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民や周辺施設等への理解・協力への働きかけの結果、地域行事への参加や子供たちの職場体験学習の受け入れ、認知症講座への講師派遣等、活発な交流が図られている。また、ホームの消防訓練に近隣住民の参加が計画されるなど、防災面での協力も得られつつある。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で話し合い事業所独自の理念がつくられているが、地域密着型サービスの役割を反映した内容とはなっておらず、現在地域の方々とのつながりを強めるような理念を検討中である。	○	地域密着型サービスとして何が大切か職員で話し合い、事業所独自の理念を再度つくりあげていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼において理念の唱和が行われている。職員は日々の業務において、入居者の気持ちを尊重した支援に努め、理念の実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町民体育大会、夏祭り、小・中学校や幼稚園の運動会等、地域の行事に積極的に参加している。また、ボランティア、施設見学、職場研修の受け入れも実施されている。近所の子供たちがホームに遊びに来ることも多く、地元の人々との交流は盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義を、管理者のみならず職員もよく理解している。自己評価についても全職員で行われ、サービスの質の確保及び向上に対し積極的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、地域住民、市職員に加え、警察関係者や協力医療機関職員等、幅広い立場の方が参加する運営推進会議が開催されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、市の担当者とは密に連絡がとられ、サービスの向上に向け協力して取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の様子は、面会時や電話によって都度に報告している。また、定期的に「グループホームおおうら新聞」や手紙によって、ホームの活動の様子等を伝えている。金銭管理は、面会の際に確認してもらいサインをいただいているが、来訪が困難な遠方のご家族に対して、十分な報告が行われていない。	○	近況報告の手紙と一緒に、金銭出納帳の写しを送付し確認していただくなど、来訪が困難な遠方のご家族に対する金銭管理の報告方法について検討していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等が意見、不満、苦情をホーム側に伝えるため、意見箱が設置されており、運営推進会議も開催されているが、外部(市町村や国保連)の相談・苦情窓口が重要事項説明書等の文書に明示されていない。	○	市町村や国保連の相談・苦情窓口の連絡先(住所・電話番号等)を、重要事項説明書等の文書に明示するなどして、ご家族等の意見、不満、苦情をホームの運営に反映させるように検討していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員は基本的に固定されており、担当制も導入されて馴染みの職員によるケアが行われている。やむを得ず離職する場合も、入居者の状態に応じ、ダメージを防ぐべく適切な対応がとられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修計画が作成され、2ヶ月毎に研修が実施されている。外部研修についても交代で職員が参加し、研修後の報告も適切に実施されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会や地区研修会を通じ、情報交換が行われ、サービスの質向上に向けた取り組みが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望されるご家族によるホーム見学に加え、最近ではご本人にもホームを直に見学していただき、安心して納得して入居していただくよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事のやり方を教えていただいたり、昔の風習を教えていただいたり、時には慰められたりと入居者と共に支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしにおいて、会話の中から希望や意向を把握するよう努めている。また、困難な場合はご家族からも情報をいただくなどしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者ご本人の希望や意向を把握することは勿論、担当職員やご家族からの意見、さらに看護職員による専門的な意見を参考に介護計画を作成している。2ヶ月に1回カンファレンスにより意見のすり合わせが行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態に応じ、現在では1年ごとに介護計画の見直しが行われている。また、病状の変化等に対応し、随時の計画変更も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	各ユニットごとに看護師が配置されており、協力医療機関と共に医療連携体制がとられ、外来受診や往診などの支援を行いながらホームでの生活の継続に取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在では全ての入居者のかかりつけ医が協力医療機関となっており、2週間毎の往診と随時の外来受診が実施されている。運営推進会議には、協力医療機関の職員も出席している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制が整った際、ご家族に説明し話し合いが行なわれたが、それ以降職員間で話し合うことはあるが、ご家族との話し合いは行なわれていない。	○	一度方針を決めても、本人とご家族の思いは常に揺れ動くため、本人、ご家族、かかりつけ医等と状況変化に応じ、繰り返し話し合い、全員で方針を共有することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から、プライバシーや羞恥心に配慮したケアが実践されている。また、個人情報に関しても、入居時に「秘密保持・個人情報保護についての同意」をいただくなど厳正な取り扱いがなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れに決まりごとをつくらず、体調に配慮しつつ、一人ひとりのペースを大切にした支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立については、地元の食材を中心に、入居者の希望を考慮しながら決めている。また、ホームで栽培された野菜を入居者が収穫し、下ごしらえや調理、配膳や片づけを手伝っていただいている。職員も入居者と同じ食事を食べ、楽しく食事が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を好まれない入居者が多く、それぞれの体調や気分に合わせて、タイミングを計りながら入浴の声かけが行われている。入浴されない場合も、足浴を行うなどの配慮がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事(団子や菓子作り、洗濯物たたみ等)や畑仕事など、入居者の生活歴に配慮しながら日々、役割や楽しみごと、気晴らしの支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の中だけで過ごさないよう、散歩や買い物、ドライブなどが行われている。また、希望される入居者には一緒に墓参りに出かけるなど、日常的に外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	敷地面積が広く、建物から出ても危険がないこともあり、日中は施錠されていない。帰宅願望があり建物から出て行かれる入居者に対しては、職員と一緒に外に出かけ、落ち着くまで周りを散歩するなどしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定したものを含め、年2回の消防避難訓練が行われている。また、地区の消防団の方に施設内をチェックしていただいたり、運営推進会議において災害の際の協力を依頼するなど、日々取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせ、1日の摂取カロリーは1,200～1,400kcal、水分摂取量は1,200～1,300ccを目安として管理されている。また、それぞれの疾患に合わせた塩分等の制限も適切に管理され、支援経過に記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースに畳の部屋を配置するなど、居心地のよい空間づくりが工夫されている。また、テレビの音や職員の声のトーンには特に気をつけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族と相談しながら、入居者に安心して居心地よく過ごしていただくよう、使い慣れた馴染みの品や家族の写真、仏壇などが持ち込まれている。		